作文指導をめぐつて

――4年生の歩みより――

本　田　　司
Tukasa HONDA

I はじめに

低調ときめつけられたまま，久しい間のもがきを続けた作文教育が，ようやくその態勢を整へ，新しい息吹をみせようとしているが，今尚その眼前には解決を迫られた幾多の問題が残されている。即ち，

「生活綴方とは何か」「作文と綴方はどこがちがうか」「生活指導か表現指導か」と云つた作文そのものの考え方に関するもの，更には，教育計画の中における作文の位置づけの問題，レポートや調査報告の指導は，日記や詩の指導は，書けない子供の指導は，効果的な評価の方法は等々具体的な悩みまで，色とりどりであり，どれもおろそかに出来ない問題である。

しかしここでは与えられた紙数を考え，次の三点つまり，

（1）作文をどう考えるか。

（2）作文を国語の教育計画にどう位置づけたか。

（3）評価にどの様な方法をとつているか。

について4年生を中心として私の歩みを省みたい。

II どう考えるか

書くことの目標が，「自分の考えをまとめたり，他人に訴えたりするために，はつきりと，正しく，わかりやすく独創的に書こうとする習慣と態度を養い，技能をみがく」であり，作文がこの「書くこと」の言語活動を対象とするものであることを素直に受入れるならば，作文の内容は，「綴方」と云つた時代より，より広く，より深くなつていることがわかる。

今更云うまでもなく，すべての教育は「のぞましい人間形成」をめざしていとなまれているべきなのに，時に或る特定のイズムなり，特殊なことばにとらわれて，互に自己の立場を固執し，他を排斥することに汲汲としている姿を見受ける。このことは作文の場合にも云われることである。すなわち「生活綴方」「生活作文」等といわれる中に，生活綴方でなければ，綴る力は伸ばされないし，単に作文と云つては，日記なり手紙なり宣伝文等ただ外面的な技術しか指導しないもの……といつた意味のひびきが強いものなどがそれである。そしてこうした論議に頭を突込んでいる間に何時しか，実践への取つ組なり意欲を失つてしまつたのではなかろうか。

児童が書くという活動を為す場合，私は作文と云おうが，綴方と呼ばれようがその様な名称はどうだつてよいのではないかと思う。何故なら，外面的な技術のみの指導で作文教育が出来るものでないし，生活云々と云つても表現形式を軽視しては綴方とも作文とも云われるものでないことを知るから。

▲作文は文の書き方を指導するものである。

▲作文は又表現を通してその内容である生活の指導もするものである。

私は作文をこんなに考えている。視野の狭い考えと謗られるかも知れない。だが作文は作文の領域に一応忠実であるところに，目下の課題解決の手がかりがあるし，発展する作文にもつながるのではあるまいか。

Ⅲ　國語教育計畫への位置づけ

4年の作文の指導目標として

1　読んだ本についてそのあらすじや，感想が書ける。

2　いろいろな行事についての標語が書ける。

3　行事についての宣伝や，広告の文が書ける。

4　見学や，調査などのかんたんな報告の文が書ける。

5　ゲームの解説や作業計画などについて説明の文を書くことができる。

6　児童詩が書ける。

7　かんたんな物語や脚本を書くことができる。

8　多角的に取材してまとまりのある生活日記を書くことができる。

9　自分の生活を反省して文を書くことによつて考えを一そう深くすることができる。

10　敬体と常体との使いわけができる。

11　共同で，文集，かべ新聞，学級新聞などを編集することができる。

が，あげられるが，之が達成のための具体的指導の場として，次の様に国語の教育計画の中に位置づけてみた。

月	日常課程	国語学習内容	(作文面ぬき書)	目標	教科書
四月	進級のよろこび ・家庭訪問 ・身体検査 ・新学年の準備	○進む世の中 ・学校のなりたちと今の様子をきいてきて話しあう ・「なつかしい音」をしらべ擬人文の書き方を学ぶ ・「おじさんの声」をしらべる 生活文の正しい表現法，電文のきまり，よみ方 ・「時は流れる」を読み上演する ・生活のうつりかわりについて話し合つつたり，作文にかいたりする	・郡山先生へ手紙を書く ・擬人文の書き方を知る ・電文の書き方 ・「私の家」についての作文を書く	8 10 9 2 3	物語 生活文 よびかけ
五月	よい子供 ・小供の日の行事をする ・小運動会 ・遠足 ・母に感謝の会 ・よい子の表彰	○学級新聞 ・新聞を読んでもらつて話合う ・「話合い」「編集」をしらべる ・新聞をつくる 話合い，分担，編集 ・「そよ風第一号」をよむ，記事の書き方 ・作つた新聞の表現を批正する ・第二号を編集し分担して継続発行する	・仲よし新聞を編集する ・「遠足」の作文を書く ・「母の日」について標語を書く	9 11 2 7 6 4	かべ新聞 生活文 詩

六月	からだ 虫歯予防デー	○研究発表会 ・田上の昔と今について話合う ・「山の上で」「谷川の音」「あらしの日」を読みしらべる ・田上の自然や近頃の天気，大水を題材に作文を書く ・送電線を読み味わう ・「ねていて人を起すな」「四品の人」を読む ＝伝記の書き方＝ ・村の発達や災害防止に尽した人々について調べ，文，詩，お話などにして発表する（校内放送）	・つゆについての詩や生活文を書く ・あらしの日の細かい描写について話合う ・からだに関する標語を書く 発表文の原稿を書く ・耕地整理につくした人について ・田上川の治水につくした人の苦心について	6 8 9 2	生活文 詩 伝記
七月	てつだい ・休みの日の過し方 ・田植えの手伝い ・毎日きまつた手伝をする	○海の生活 ・水遊びや海についての経験を話しあつたり作文にかいたりする ・「なぎさ」「夜あけ」を読んで味わう「海べの子ども」を読む	・休みの計画について説明文を書く ・海に関して詩や作文を書く		詩 戯曲
九月	よい子のべんきよう ・休みあけの展らん会 二学期の生活設計	○生活文の読み方 ・夏の夜自然を話題にして話しあう ・「ゆうが燈」「こん虫館」「こまと星」をしらべ文章をつかむけいこをする ・三つの文の構成組立てをわかる ・科学的題材をあつかつた文を読む ・理科でしらべた夏の自然や虫などを，生活文，報告文にわかり易くかく	・夏休み作品展について宣伝文，広告文を書く ・文集をつくる ・生活文，報告文をかく（夏休みの生活から）	2 3 11 7	生活文 物語
十月	秋の遠足 ・計画 ・遠足する ・反省	○お話のきき方，話し方 ・朝会や其の他のお話を反省しあつてみる ・お話のききとり方について話あう ・「くじらを追つて」をしらべる ＝要点のつかみ方＝ ・先生や他の人のお話をきいてまとめるけいこをする ・お話の原こうをかいてお互に話しあう	・お話を聞いて感想を書く ・お話を聞きながら記録をとる ・お話の原稿を書く	1 9 7	講演記録
十一月	運動会 働く子供 ・とり入れのおてつだい ・作業週間の行事をする ・勤労感謝の日の行事をする	○伝記物語 ・「初めての地図」を読み叙事詩をわかる ・「おらんだの少年」「テームス川のトンネル」「無言のあいさつ」 ・読んだ内容をお話にしたり，文に書く ・感想を読書ノートに書く	・読んだ本のあらすじを書く ・生活に取材して詩を書く ・紙芝居をつくる ・読んだ本の感想を書く	6 11 1	詩 物語 伝記
	年のくれ ・防火週間の行事	○展らん会 ・「案内状」「展らん会」「ぼくのトラツク」を読んで調べる	・案内状を書く	3	手紙

十二月	・冬休みのくらし方 ・大みそか ・クリスマス	・案内状をかく ・展らん会，運動会を題材にした作文をかく ・作品のできるまでをくわしく作文にする ・冬休みの読み物をさがす *鹿児島の町名の漢字よみ	・作文をかく ・説明文をかく ・防火に関する標語をかく	5 2	生活文
一月	お正月 ・お正月の反省 ・新年の希望 ・冬休み作品展 寒さにまけない丈夫な子 ・耐寒訓練の行事をする ・冬の病気 ・冬の遊び	○冬景色 ・「冬の顔」を読んで情景を味わう ・目のつけ方描写のしかたをしらべ冬の情景をみつけてかく ・「朝の市」を読む ・作文をかく ○手紙と日記 ・お友だちや知人に手紙をかく ・手紙文の書き方 ・葉書のかき方をわかる ・日記文をよむ ・日記文の書き方を学ぶ	・冬の情景をみて作文にする ・手紙を書く ・葉書を書く ・日記を書く	8 9 6 10	詩
二月	・節分 ・立春 楽しい学芸会 ・学芸会の計画 ・練習 ・学芸会をする ・反省	○図書室 ・「辞書」をよんで，辞書のひきかたをわかる ・「図書室」をよむ ・図書室の利用法をわかり利用する ・「足あと」を読んで作品集，読書ノートの書き方を学ぶ ・作品物や読書ノートをまとめる	○図書室のいろいろの本を読み，その感想をかく ○かんたんな物語をかく	1 7	生活文 物語
三月	思い出 ・一年間の反省 ・一年間の整理 ・別れ遠足	○お話合 ・「少年の日」の物語りをよむ ・それぞれについて感想をかいたり話合つたりする ・まとめてお話にする ・偉人の逸話を多く読み，お話合をする ・自分の幼い頃のお話をまとめる	・読んだ本の感想を書く ・自分の事を主題にしてかく ・学級文集のあとをまとめる	1 9 5 11	伝記 物語

※　国語の学習内容のらんには，書き方とローマ字は都合により記入していない
※　教科書らんは，使用している教科書の内容を示した
※　作文のみ特設したのではなく，便宜上ぬき書きしたものである

Ⅳ　評価の二・三の方法

作文の評価の問題も極めて大きな仕事であるが，ここでは評価の方法について二，三述べることにしたい。

作文の評価というと，書かれた作文をどう評価するか―と云うことにほとんどの時間と，労力が費されていたが，作文が美文家の養成にその目的をおかず，広い視野に立ち，教育の一分野に立つ限り，そのようなことは許されまい。

今書くと云うことを通じて考えられる評価の機会には次の三点があろう。

（1）書く前の評価

（2）記述中の評価

（3）書かれた文の評価

※書く前の評価については，取材や構想についての話合，または文題ノートによつて評価することができる。

記録のとり方として考えられる形式は次の様なものである。

（表　1）

番号（　）	月日	題	
氏名　泊　ゆう子	7月3日	雨の日	
	こと	がら	
	近頃の天気からこの頃の遊びを主に詩も入れる		

（表　2）

氏名＼月日＼題＼項目			観察程度	社会的態度	生活経験
中野　れい	6/18	雨の日	4 こまやか	4	4

（表1）は児童のためのもので，児童が取材したものを記録し，やがて組立て，整理し，想を太らせるために用意されたものである。漠然と書くのでなく，生活を意識的に観察する態度の高まりをねらつた。

（表2）は教師のひかえとして，準備されたもので，五品等に分けて整理記入している。

※記述中の評価は，案外無視されがちであるが，文を書くと云う過程をいかに導くかと云うことをより重視する私は，この記述中の指導，評価は極めて大切であると思う。

そこで考えられる方法としては，記述中に5～6人の児童を一人づつ前によび，児童と読みながら問答してゆくゆき方である。その対象としては，形式面，内容面共に考えられる。ここでは特に話合が中心となるので，記録としては，後程示す評価用紙に印を簡単につけるのみであるが，こうした方法をとることによつて，児童の個人差に応じた指導ができ，学習態度，学習用具，表現上の抵抗等の諸問題が，その場，その場で解決されるので能率的であり，効果的である。

※書かれた文の評価については，其の時の観点によつていろいろ異つてくると思われるが4年生として考えている形式及び内容の項目としては，

（イ）内容上から

◎ 題材はどうか。

◎ よく観察し，よく考えているか。

◎ 構想のねり方は正しいか。

◎ 書こうと思つたことが表現されたか。

（ロ）形式面より

◎ わかりやすく正しい書き方かどうか。

◎ 漢字がどの程度使われているか。

◎ 句読点。「　」の使い方はどうか。

◎ 文章の切り方はどうか。

等であり，評価に当つては，

◎ 児童自身の評価。

◎ 児童相互の評価。

◎ 教師の評価。

を適当に組合せ，項目によつて五段階に尺度を決めて実施している。児童による評価は全体の場合，グループの場合等があるが作文の推稿力が伸び，鑑賞批評を進んでする態度が培れてゆく様である。

整理番号（　　）氏名					
み方 考え方	•				
着想	•				
組立て	•				
記述	• •				
表現 技術	•				
鑑賞 批評	•				
態度	•				
項目 月日 題	7/20 海水浴				

子供の立場を重んじ，個に徹して，科学的になされなければならない評価である。繁雑な事務をもつ現場教師ではあるが，この評価を能率的にするにはどうするか——もう一つの課題であろう。全体的な評価の記録形式として次の様なものを用意している。

以上評価について色々述べたが，その根本となる問題は，「児童の文を如何に観るか」にある様だ。之の解決の為には，確固たる作文観の樹立と，文例研究の促進等があげられよう。

V　あとがき

山積する作文教育の問題の中より，ささやかな歩みをかえりみつつ二・三の事にふれたが，残る問題は更に多い。

すべての児童が書くことを楽しむ姿——それが私たちの悲願の姿である。之がためには，多くの理論もあろう——が，より大切なことは，とにかく児童に書かせる事にあるのではなかろうか。

（田上代用附属小学校）